

令和7年度 事業報告

自 令和7年4月1日

至 令和8年3月31日

一般財団法人 MOA健康科学センター

I 法人の概況

1. 役員に関する事項

役員一覧

(令和8年3月31日現在)

役職	氏名	勤務先／役職
理事長	鈴木 清志	一般財団法人MOA健康科学センター 理事長
専務理事	利見 晃二	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局長
常務理事	片村 宏	医療法人財団玉川会 理事長
理 事	渡瀬 信之	東海大学 名誉教授
〃	陽 捷行	北里大学 名誉教授
〃	松尾 汎	医療法人松尾クリニック 理事長
〃	宇田川和也	宇田川和也法律事務所 所長
〃	佐久間哲也	医療法人財団玉川会 理事
〃	立川 豊吏	医療法人財団愛和会 理事長
〃	中島 宏平	一般社団法人MOAインターナショナル 理事長
〃	有馬佐和子	医療法人財団玉川会MOA新高輪クリニック 看護師長
〃	豊田 益代	一般社団法人MOAインターナショナル 管理栄養士
業務執行理事	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
監 事	石原 義之	東方之光 理事
〃	戸石 久実	株式会社MOA商事 経理部部长

計15名（理事／13名 監事／2名）

2. 評議員に関する事項

評 議 員 一 覧

(令和8年3月31日現在)

氏名	勤務先／役職
長南 征二	東北大学 名誉教授
蝦名 玄大	医療法人財団瑞泉会 理事
柴 維彦	医療法人財団玉川会 理事
横山 茂弘	東方之光 理事
水野 昌司	公益財団法人農業・環境・健康研究所 シニアリサーチフェロー
小菅 豊弘	株式会社エム・オー・エー商事 執行役員
大門 一樹	東方之光国際委員会 事務局
笹岡 勝利	東方之光調整局調整部 部長

計8名

3. 顧問に関する事項

顧 問 一 覧

(令和8年3月31日現在)

役職名	氏 名	職 業 等
顧 問	チャクリット・プーミサワット	元タイ国衛生省事務次官室監査委員会 監査官
同	牧 美輝	医療法人財団光輪会 理事長

計2名

4. 事務局員に関する事項

事務局員一覧

(令和8年3月31日現在)

事務局長	利見 晃二
事務局次長	柴田 和廣

計2名

5. 研究スタッフに関する事項

研究スタッフ一覧

(令和8年3月31日現在)

研究部部长	片村 宏 (医師、医学博士)
研究部次長 主任研究員	木村 友昭 (博士 (医学))
〃	内田 誠也 (博士 (工学))
研究部課長 研究員	加藤孝太郎 (博士 (農学))
研究部課長 研究員	田中 英明 (博士 (公衆衛生学))
客員研究員	深澤 大輔 (あん摩マッサージ指圧師)
〃	富嶋 謙之 (准看護師、公認心理師)

計7名

6. 研究推進委員会および治験審査委員会に関する事項

令和7年度委員一覧

(令和8年3月31日現在)

役職	氏名	勤務先／役職
委員長	鈴木 清志	一般財団法人MOA健康科学センター 理事長
副委員長	片村 宏	医療法人財団玉川会 理事長
〃	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
委員	松尾 汎	医療法人松尾クリニック 理事長
〃	森岡 尚夫	医療法人財団玉川会 理事
〃	立川 豊吏	医療法人財団愛和会 理事長
〃	蝦名 玄大	医療法人財団瑞泉会 理事
〃	柴 維彦	医療法人財団玉川会 理事
〃	中島 宏平	一般社団法人MOAインターナショナル 理事長
〃	有馬佐和子	医療法人財団玉川会MOA新高輪クリニック 看護師長
〃	豊田 益代	一般社団法人MOAインターナショナル 管理栄養士
〃	利見 晃二	一般財団法人MOA健康科学センター専務理事・事務局長
〃	田渕 浩康	公益財団法人農業・環境・健康研究所 業務執行理事
〃	木村 友昭	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
〃	加藤孝太郎	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部課長
〃	田中 英明	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部課長
〃	深澤 大輔	一般財団法人MOA健康科学センター 客員研究員
〃	富嶋 謙之	一般財団法人MOA健康科学センター 客員研究員
〃	片瀬 愛	一般社団法人MOAインターナショナル 運動指導士
〃	本村 明嘉	一般社団法人MOAインターナショナル 公認心理士

計20名

7. 編集委員会に関する事項

令和7年度委員一覧

(令和8年3月31日現在)

役職	氏 名	勤務先／役職
相談役	片村 宏	医療法人財団玉川会 理事長
委員長	木村 友昭	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
副委員長	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
副委員長	加藤孝太郎	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部課長
委員	柴 維彦	医療法人財団玉川会 理事
〃	利見 晃二	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局長
〃	田中 英明	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部課長
〃	泉谷 明宏	一般財団法人MOA健康科学センター 編集委員会事務局

計8名

8. 倫理審査委員会（利益相反管理委員会兼任）に関する事項

令和7年度委員一覧

（令和8年3月31日現在）

役職	氏名	勤務先／役職
		（医学・医療の専門家、自然科学の有識者）
委員長	片村 宏	医療法人財団玉川会 理事長（医学博士、医師）
副委員長	木村 友昭	一般財団法人MOA健康科学センター（博士（医学））
委員	蝦名 玄大	医療法人財団瑞泉会 理事（医師）
〃	有馬佐和子	医療法人財団玉川会MOA新高輪クリニック 看護師長（看護師）
〃	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター 理事（博士（工学））
〃	加藤孝太郎	一般財団法人MOA健康科学センター（博士（農学））
〃	田中 英明	一般財団法人MOA健康科学センター（博士（公衆衛生学））
		（倫理学・法律学の専門家、人文・社会科学の有識者）
副委員長	宇田川和也	宇田川和也法律事務所 所長（弁護士）
委員	佐田 喜朗	日本宗教学会会員、神道宗教学会会員
〃	宮島 晶子	東方之光教学祭事委員会事務局
〃	富嶋 謙之	一般社団法人MOAインターナショナル（公認心理士）
〃	本村 明嘉	一般社団法人MOAインターナショナル（公認心理士）
		（一般の立場）
委員	豊田 益代	管理栄養士
〃	三井 淳子	一般（修士（工学））
〃	坂口 弘征	医療法人財団玉川会 事務長
〃	泉谷 明宏	一般財団法人MOA健康科学センター 倫理審査委員会事務局

計16名

Ⅱ 事業の概要

1. 総括

現代社会は、緊迫する国際情勢と経済不安による社会生活への影響、新興感染症の脅威、生活習慣病や精神疾患の増加、社会的孤立の深刻化、さらには頻発する自然災害による心身への負荷など、多層的な健康課題に直面している。これらの複雑化した健康関連の課題に対し、従来の西洋医学に基づく治療を中心としたアプローチでは、増大し続ける医療コストの抑制と多層的な健康課題に対応してきれない現状にある。令和6年度厚生労働白書では、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を目指してスタートした健康日本21（第三次）に基づき、社会とのつながりや心の健康の維持・向上などの社会環境の質の向上への取り組みが健康づくりに必要な基盤であることが示された。こうしたことから、全人的な視点で健康を見つめ、予防や健康増進を含めた総合的な健康へのアプローチが益々必要とされてきている。

そこで、統合医療による患者を中心とした疾病の治療を目的とする「医療モデル」と、地域コミュニティや社会全体で健康を支える「社会モデル」の両方が補い合い人々の健康へ寄与することが期待される。また、地域住民や多様な主体が世代を超えてつながる「地域共生社会」の実現に向け、医療・介護・地域の資源が有機的に連携するモデルの構築が進められてきている。

令和7年度は、人間が本来持つ自然治癒力を活用した医学および健康法を通じ、健康寿命の延伸に寄与することを目的として、協力機関・団体との連携のもと、調査研究および普及広報事業を推進した。「心身ともに健康なまちづくり」の実現に向け、家庭や地域社会における健康づくりの基盤拡大を目指し、岡田式浄化療法をはじめとする「岡田式健康法」の有用性について、一般社団法人MOA インターナショナルや公益財団法人農業環境健康研究所、各医療機関などと共同で調査研究を実施した。第29回日本統合医療学会学術大会では、統合医療の「社会モデル」をテーマにしたパネル・ディスカッションで登壇し、東京療院における活動を含む各種健康法の研究や事例について報告を行い、エビデンスに基づく統合医療の普及に努めた。また国内外の教育機関における岡田式健康法に関するセミナーや地域住民を対象とした「健康科学セミナー」を通じて、最新の研究成果や健康増進に資する情報を提供し健康づくり活動の活性化を図った。

これらの事業を通して、ケアを大切にした医療を推進し、家庭や地域社会における健康づくりの支援、平和で幸福な社会の実現に向けた「心身ともに健康なまちづくり」に取り組んだ。

以下、令和7年度の事業計画に基づき実施した事業活動の概要を報告する。

2. 調査研究事業の充実

MOAインターナショナル、医療法人財団玉川会など全国の医療法人財団及び地方行政・団体と連携し、岡田式健康法（浄化療法・食事法・美術文化法）をはじめとした統合医療の医療モデルや社会モデルに係る調査研究を実施した。

（1）調査研究の実施について（詳細について別紙付録① pp. 1－2 参照）

「一般社団法人脳と心の健康科学研究所」理事長の酒谷薫先生と当財団との共同研究である「AIを用いた健診データによるフレイル・認知症リスク評価と予防に関する研究」の目標としていた数のデータを収集することができた。また、東京療院をはじめ奥熱海療院および名古屋療院と共同で実施している岡田式健康法のライフスタイルと心と体のストレスとの関連についての調査研究では、生活改善プログラムの効果が明らかとなり、岡田式健康法の中長期的な効果を検証するための更なる調査の実施へと進展した。また、高齢者と障がい者が同じ場所で支援を受ける「共生型サービス」の調査では、スタッフとの交流や、提供されている健康法（岡田式健康法）が利用者の心身の支えになっており、高い満足度となっていることが明らかになった。こうして、統合医療の医療モデル（14 件）、社会モデル（4 件）の調査研究を実施した。そして学会発表（6 件）を通して研究成果の公表に努めた。

（2）学会発表および論文などの投稿

① 学術誌への論文投稿はなかった

② 編集委員会による研究報告集の第 29 巻の作成と発刊（詳細は別紙付録② p. 3－4 参照）

編集委員会を 2 回開催し、研究報告集第 29 巻を令和 8 年 2 月 4 日に発刊した。本巻の掲載論文は 7 報（「実践・事例報告」3 報、「資料」1 報、「短報」1 報、「レター」2 報であった。

③ 学会発表（詳細は別紙付録③ p. 5 参照）

本年度は、日本統合医療学会をはじめとする各種学術学会において、当財団の関係者が 6 件の発表を行い、さらに MOA 関連の他団体による 2 件の発表についてもサポートを行った。特に、日本統合医療学会では、片村常務理事がパネル・ディスカッションの中で医療モデルと社会モデルの認定施設である東京療院と各種健康法について発表した。また、内田業務執行理事はシンポジウムで芸術療法としてのお花の効果について発表を行った。

（3）研究を推進するために必要な仕組みの充実

① 研究推進委員会・小委員会の充実

内部研究小委員会を廃止し、4 月より新たに研究推進小委員会を発足し、6 回開催し研究のあり方と方向性の検討を進めた。具体的には、症例作成（石川県、北海道、愛知県等）、臨床研究（東京療院）、統合医療の医療モデルと社会モデルの検討や新規研究課題について検討を行った。また、関西療院のナーシングコンシェルジュの意義や役割についての研究、農環健研の中川研究員の研究についての情報交換なども実施した。

② 倫理審査委員会と利益相反の管理に基づく研究の充実

1) 倫理審査の実施

倫理審査委員会では、「人を対象とする生命科学・医学系研究の倫理審査に関する規程」に基づき、3件の倫理審査申請に対して、新規の迅速審査2件、計画変更の回覧審査1件の審査を実施し、承認された。(迅速審査の2件を以下に示す。) また新たな動きとしては、日本統合医療学会からの要請に基づき、同学会への審査依頼に対する協力要請を受け、倫理審査への協力体制の構築を進めた。

申請者：内田 誠也（当財団）

研究課題：「指尖脈波自律神経解析によるストレス関連パラメータと首尾一貫感覚、ライフスタイルとの関連性についてのフォローアップ調査」（迅速）

申請者：中川祥治（農業環境健康研究所）

研究課題：「エネルギー療法のひとつである岡田式浄化療法の熟達過程：代表的療法士1名を対象としたTEA（複線経路等至性アプローチ）による解析」（迅速）

また、利益相反管理委員会では、役員や研究責任者のCOI管理を適宜実施した。

（4）統合医療に関する情報収集および人的交流、人材の育成

① 学会・シンポジウム等への参加

混合研究法を用いた補完代替医療研究の現状や、岡田式健康法を含めた心身療法に関する研究のアップデート、質的研究の投稿支援セミナーなど、研究手法をはじめ論文投稿及び学会発表を行う上で参考になる最新情報の収集を行った。

② 人的交流および人材の育成

カリフォルニア州アラメダ郡において医療として食を処方するプログラムを実施しているスチーブン・チェン医師、及び米国の有機農業のパイオニアであるトム・ウィリー氏、精神病患者へ生け花を用いたマインドフルネスを取り入れたタイの医療関係者などをはじめ、国会議員や地方議員ならびに医療関係者や有識者との交流を図った。

（5）当財団の社会化に向けた研究機関あるいは各団体等との連携

① いのちの研究会・信仰をもつ医療者の連帯のための会開催に伴う運営の協力を行った。

② 各種学会との連携と支援

鈴木清志理事長（日本統合医療学会代表理事補佐理事・国際委員会委員長）、内田誠也理事（日本生理心理学会評議員）、木村友昭主任研究員（日本応用心理学会理事）、加藤孝太郎研究員（日本有機農業学会理事・研究活動委員）は各人が所属する学会において役職を担い貢献してきた。

3. 普及、広報活動の充実と拡大

MOA インターナショナルと協働しながら岡田式健康法の研究成果を分かりやすく社会に紹介する資料や情報の発信を行った。また健康づくり啓発のために健康チェックの充実に努めた。

(1) 「これからの医療とまちづくりシンポジウム」の地方開催支援（詳細は付録④ p. 6 参照）

ケアとしての医療を考えるシンポジウム（広島県開催）、第5回「美味しいまちづくり」シンポジウム in ちばの開催の協力を行った。

(2) 社会に知らせる取り組みと資料の充実

① 会員誌と資料（冊子、DVD等）による情報提供

1) 研究報告集の活用と外部団体・機関・図書館等への登録（送付）を行った。

2) 会員誌「21 世紀の健康科学」66 号の発刊

「ケアのあるべき姿を考える - 介護・福祉の事業所での営みをモデルに - 」というテーマのもと、堀島由利氏（株式会社コスモケアエナジー社長）、片村常務理事、木村主任研究員による座談会をまとめた記事を掲載し、賛助会員および関係団体に情報提供を行った。

3) 会員向けの資料（ニュースレター「すこやかだより」）の発行年2回

東京療院の運動スタジオ・ナチュラルバランスにおける活動を紹介した『ニュースレターNo. 8』および、東京療院における MOA 健康生活ネットワーク研修の取り組みを紹介した『ニュースレターNo. 9』を発行した。

4) MOA 発行の情報誌との連携

鈴木清志理事長が、MOA ニュースレターにおいて「岡田式健康法を科学する」と題した連載を3回にわたり執筆した。

5) 資料（冊子、DVD等）の作成と活用

各種テーマで研究員が行ったセミナーのDVDを3枚頒布。

② インターネット配信の充実

1) ホームページの更新と充実

本財団の事業・活動、健康チェックに関する情報、研究成果などについて定期的に更新を行い、普及・広報活動に活用した。ホームページを見て健康チェックに訪れる事例も複数あった。

2) YouTube およびSNSの更新と充実

AI 技術を活用して、研究内容をわかりやすい内容したセミナー動画を YouTube で公開した（2 件の公開、4 件の限定公開）。年間チャンネル登録者数は17名増加し（累計719名）、総視聴回数は1141回に達した。岡田式健康法の有効性を広く発信することができた。

また、LINE 公式アカウントによる健康チェックの広報活動も展開し、登録者数は632名で、健康チェックのスケジュール案内やグリーンマーケットのコラボ企画などの紹介も行った。

3) 研究報告集の電子ジャーナルによる発信

研究報告集第 29 巻を本財団ホームページ上で電子ジャーナルとして公開した。

(3) 講演会、研究会、セミナー健康度測定の実施

① 教育機関等での実施

1) 神奈川歯科大学大学院

令和 4 年度から継続して、当該大学院の統合医療学講座の蒲原聖可教授（東京療院の協力医師）から食事療法概論の講義を依頼された。MOA グループが全国展開している自然・有機農産物を取り入れた統合医療の取り組み、自然・有機農法は地球環境への負荷や化学農薬による健康への悪影響を減らし、腸内環境の改善も期待できることを紹介したところ、MOA グループの取り組みに興味を持った医師や看護師の療院視察につながった。

2) 韓国サイバー大学

サイバー大学のリー教授の依頼により鈴木理事長がエネルギー療法とMOA活動についてセミナーを実施した。合わせて参加者は浄化療法を体験し、浄化療法の施術資格の取得に繋がる事例が生まれた。

② 各MOAチーム（健康生活ネットワーク）と連携したセミナーと健康度測定の実施（詳細は別紙付録⑤、⑥ pp. 7-8 参照）

セミナーは年間 5 回実施し、約 2100 名を対象とした。健康チェックは 106 回実施し、約 1800 名が参加、寄付金として約 50 万円をいただいた。

1) 東京療院内における実施

週 2 回の健康チェックの実施に加え、グリーンマーケットとのコラボ企画、東京療院内で行われる健康生活ネットワーク関係者の研修、チェン博士をはじめとした海外からの来訪者への対応として、健康チェックを実施した。年間の実施回数は 91 回、参加者は 827 名にのぼり、寄付金として 344,900 円をいただいた。一般参加者の割合が約 17.3%であり、東京療院の健康法体験やクリニックを紹介することが許された。

2) 各地域での実施

セミナーについて市川市をはじめとして 4 か所で開催し、約 130 名が聴講した。健康チェックは 7 か所で実施され、約 330 名が体験した。特に市川市市民まつりでは、一般参加者が岡田式浄化療法の前後で肩の筋硬度を計測し、効果を実感。これをきっかけに健康セミナーへ参加され、健康法の資格を修得される方もおられた。

3) 箱根町・瑞泉郷などでの実施

8 月に箱根で行われた行事において、内田業務執行理事がライフスタイルケアに関する研究成果を紹介。箱根および大仁瑞泉郷における健康チェックは 8 回実施し、延 634 名が体験した。賛助会員に対する健康意識の向上に貢献することができた。

4. 事業基盤の充実と拡大

(1) 賛助会員

賛助会員登録数は、団体会員 18 団体、個人会員 1412 名（令和 8 年 3 月末現在）である。本年も「21 世紀の健康科学」「すこやか便り」の作成（ニュースレター）やチラシの配布、研究報告集第 29 巻の進呈案内等を通して事業内容の広報に努め、賛助会員入会の案内を進めた。こうした取り組みの中から新規に個人会員 5 名の入会者を得ることができた。

(2) 寄付金収入

東京療院において定期的に行っている健康チェックをはじめ Youtube 動画の配信、ホームページ等を通して研究成果を広く伝え、統合医療の有効性を訴えていくことにより、財団運営・活動へのご支援をお願いしてきた。本年度は、賛助会員や関係者及び各団体をはじめ一般の方々から、年間で約 58 万円の真心こもる寄付金をいただくことができた。

以 上

付録① 調査研究一覧

研究 カテゴリ	研究タイトル	主担当者	共同研究者 (当財団関係 者のみ)	共同研究機関	進捗状況	学会発表	論文発表	結果と課題
1. 岡田式健康法に関わる研究 (医療モデル)	① - 1 過眠症に対する療院と分院の取り組み	池田淳史	木村友昭、 利見晃二	札幌療院	調査研究中	有り	執筆中	岡田式浄化療法によってナルコレプシーが改善に向かい、全人的ケアに役立った症例を取りまとめた。
	① - 2がん患者の症例作成支援	伊藤宗晴	利見晃二 木村友昭	南九州療院	準備中			
	① - 3関西療院におけるナースングコンシェルジュの意義と役割についての研究	津村慶子	有馬佐和子 田中英明	関西療院	調査研究中	有り	執筆中	関西療院におけるナースングコンシェルジュの意義と役割について一事例の紹介を通して明らかにした。
	②症例を収集する仕組みの開発	内田誠也		東京療院	調査研究中	無し		データが集まらず、根本的に仕組みを変える必要がある。
	③岡田式健康法のライフスタイルと心と体のストレスとの関連について	内田誠也	田中英明、 片村宏、 柴維彦、 富嶋謙之	東京療院、 奥熱海療院、 名古屋療院、	調査研究中	有り	採択済み	奥熱海療院と連携した生活改善プログラムが心身のストレス状態を改善する結果が得られ、統合医療学会で報告し、研究報告集にも論文が掲載された。更に中長期的な岡田式健康法のストレス緩和効果を明らかにするためにフォローアップ調査もスタートした。今後は各療院と連携してフォローアップ調査のデータ収集を行うことが課題である。
	④岡田式健康法が生活習慣病患者の動脈硬化に及ぼす影響	児玉啓介 大村重信	木村友昭	児玉医院、広島療院	データ収集 終了	無し	執筆中	主論文は、すでに研究報告集第28巻に掲載済みである。研究参加者の事例について、スピリチュアルケアの視点から別途論文を作成中である。
	⑤AIを用いた血液検査データによる認知症リスク評価と予防に関する研究	片村宏	鈴木清志、 柴維彦、 木村友昭	脳と心の健康科学研究所、 エム・オー・エー 高輪クリニック、 エムオーエー新高輪クリニック	データ収集 終了	検討中	検討中	114人の研究参加者のデータを解析中である。生活習慣や岡田式健康法の実施状況と認知症リスクとの関連は見られなかった。
	⑥岡田式健康の姿勢に改善に関する研究	佐藤智広	片村宏、 田中英明	東京療院、 エムオーエー新高輪クリニック	未着手			主担当者の異動に伴い研究の継続について検討が必要となった。
	⑦PTGと岡田式健康法及び信仰とスピリチュアリティに関する調査研究	田中英明	木村友昭	日本大学	データ収集 終了	無し	執筆中	英文論文を執筆し、然るべき複数の雑誌社へ投稿を行ったがいずれも棄却されたため、論文を再検討中である。
	⑧お花を利用した心理療法の評価法に関する研究	内田誠也	本村明嘉、 田中英明	東京療院	データ収集 終了	有り		東京療院のカウンセラーチームと連携して、5組の親子が生けたお花の写真画像を分析し、患者と保護者の心理状態と配置された花の距離に関連がある可能性が示唆された。課題として、この内容を論文化することが課題である
	⑨美術文化法に関する研究	柴維彦	木村友昭	MOA名古屋クリニック	準備中	無し		長野県で行われたイベントにおいて、美術文化法の前後で予備的に計測を行った。研究対象者や場所などについて、検討が必要である。
	⑩ - 2食生活の異なるヒトの腸内細菌叢の多様性	加藤孝太郎		農業環境健康研究所、 光輪会鹿児島クリニック、 社会医療法人聖医会サザン・リージョン病院、 社会福祉法人青鳥会、 株式会社サツマグリーンティー、 MOAインターナショナル	データ収集 終了	有り	採択済み	有機農産物の日常的な摂取の有無で、腸内細菌叢の違いを比較した。結果の一部は、2016年の統合医療学会、2015年の岡田式健康法研究会で発表した。手法の精度を改善したところ、遺伝子多型解析での調査では顕著な差は認められなかった。網羅的解析も行ったが、データ解析はこれから実施する予定である。論文は、遺伝子多型解析法に関する内容を研究報告集第28巻に掲載された。
	⑩ - 3栽培管理の異なるニンジン	加藤孝太郎		農業環境健康研究所、 光輪会鹿児島クリニック、 社会医療法人聖医会サザン・リージョン病院、 社会福祉法人青鳥会、 株式会社サツマグリーンティー、 MOAインターナショナル	データ収集 終了	有り	投稿中	結果の一部は、2016、2018年の岡田式健康法研究会、2025年の日本有機農業学会で発表した。2026年の日本土壌微生物学会でも発表予定である。有機農業学会での発表内容は、同学会学術誌の有機農業研究18巻1号に掲載予定である。腸内細菌叢の網羅的解析のデータ解析はこれから実施する予定である。
	⑩ - 4自然農法にて育成された新品種米の摂取が成人のアトピー性皮膚炎と腸内細菌叢に及ぼす影響	田淵浩康	加藤孝太郎、 木村友昭	農業環境健康研究所、 光輪会鹿児島クリニック、 玉川会エムオーエー名古屋クリニック、 玉川会金沢クリニック、 医療法人社団慈生会梅園ヘルスケアクリニック	調査研究中	検討中		現在までに、6名の被験者が得られ、医療機関での検診と新品種米の摂食および腸内細菌叢の解析を行っている。数名自己評価の改善はみられるものの、医師による重症度変化では顕著な改善を示す結果は得られておらず、腸内細菌叢にも顕著な差は認められていない。

2. 岡田式健康法に関わる研究（社会モデル）	①相談シートを活用した地域コミュニティとの連携の取り組みについての研	検討中		東京療院				
	②社会モデルとしてのMOA健康生活ネットワークに関する調査研究	丹治博子	片村宏、有馬佐和子、木村友昭	東京療院	完了	有り	採択済み	「MOA健康生活ネットワーク研修」の意義について調査した。メンバー同士の結束が強まるだけでなく、他人のために行動する「利他性」が高まることが明らかになった。
	③岡田式健康法を取り入れた通所介護事業所の取り組みについての研究	木村友昭		コスモケア・エナジー（広島介護事業所）、日本大学、広島大学	完了	有り	採択済み	高齢者と障がい者が同じ場所で支援を受ける「共生型サービス」の実態を調査した結果、利用者の満足度は非常に高く、スタッフとの交流や、ここで提供される健康法（岡田式健康法）が心身の支えになっていることが明らかになった。
	④有機栽培の技術指導付き市民農園が利用者の主観的な健康に及ぼす影響の調査	中川祥治	田中英明	農業環境健康研究所、静岡県公立大学法人静岡県立大学	調査研究中	無し	検討中	2023～2025年度で17名分のデータが入手できた。2025年度は6名分のデータが入手できる見込み。40名分を目指してデータを蓄積中。
3. 統合医療の研究（医療モデル）	①タイ式マッサージに関する研究			タイ国衛生省	未着手			研究の見合わせ

研究報告集第29 巻の内容の紹介

本年2月4日にMOA健康科学センター研究報告集第29巻が発刊されました。実践事例・報告が3件、資料が1件、短報が1件、レターが2件掲載されております。各論文についての要約とYouTube動画(限定公開:期間2026年9月末まで)を下記に示します。QRコードを読み取っていただくと視聴できます。



【実践・事例報告】介護・福祉共生型サービスにおける利用者の満足度および実態について

ー広島県の介護事業所における調査結果よりー

堀島由利ほか

この論文は、広島県の介護事業所で行われている「共生型サービス」の実態を調査したものです。これは、高齢者と障がい者が同じ場所で支援を受ける仕組みです。調査の結果、利用者の満足度は非常に高く、スタッフとの交流や、ここで提供される健康法(岡田式健康法)が心身の支えになっていることが分かりました。

特に、認知機能が高い高齢者ほどサービスの満足度が高い傾向にあり、日々の活動が生活の質(QOL)の維持に役立っていることが示唆されました。今後の課題として、認知症が進行した方への個別ケアの充実や、スタッフの負担軽減などが挙げられており、誰もが自分らしく過ごせる場所づくりの重要性を伝えています。

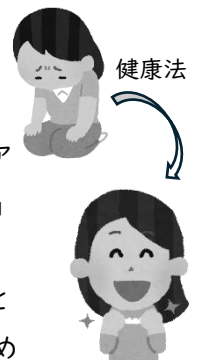


【実践・事例報告】2回の乳がん治療を乗り越えた患者の一事例

ー患者自身の意味づけとケアのあり方を考えるー

三宅真矢ほか

この論文は、2度目の乳がんという困難を乗り越えた女性患者の症例を通じ、統合医療施設でのケアの意義を報告したものです。30年ぶりに乳がんを再発した患者のAさんは、当初「なぜまた病気に」と強い不安と精神的苦痛(スピリチュアルペイン)を抱えていました。しかし、施設での岡田式健康法(浄化療法・食事・美術文化)を取り入れたケアやスタッフの寄り添いにより、徐々に前向きな心境へと変化しました。7年後の調査では、逆境を通じて精神的に成長する「心的外傷後成長(PTG)」が認められ、自分の体験を生かしてボランティア活動に励むなど、病を通じて人生に新たな意味を見出す姿が示されました。



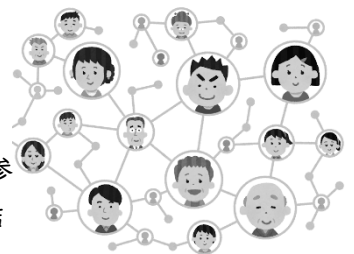
【実践・事例報告】地域共生社会における「MOA 健康生活ネットワーク研修」の意義

ー統合医療施設と地域コミュニティとの連携の実践ー

丹治博子ほか

この論文は、少子高齢化が進む中で「地域共生社会」を実現するために行われた「MOA 健康生活ネットワーク研修」の意義を調査したものです。東京療院で開催された研修に参加したボランティア団体の代表者を対象に調査したところ、研修によってメンバー同士の結束が強まるだけでなく、他人のために行動する「利他性」が高まることが分かりました。

具体的には、研修後に地域の市民まつりや食育講座、福祉ボランティアなど、組織の枠を超えて外部と協力する動きが半数以上のケースで確認されました。このことから、本研修は参加者の意識を地域社会へと向けさせ、住民同士が支え合う社会づくりに貢献する有意義な機会になっていると結論づけています。





【資料】心身のストレスと生活習慣の総合評価法を用いたストレス対処法に関する予備的研究
ー被験者間相関分析と被験者内相関分析との比較およびクラスター分析を用いた相関性の分類ー

内田誠也ほか

本研究は、心身のストレスと生活習慣の関連性を調べ、一人ひとりに適したストレス解消法を見つけるための予備的な研究です。16名の男女を対象に、心拍数や肩の凝り具合、生活習慣などを複数回測定して分析しました。その結果、ストレスの感じ方や体への影響は、全体的な傾向とは別に、個人によって大きく異なることが分かりました。例えば、運動でストレスが減る人もいれば、別の習慣が効果的な人もいます。このことから、ストレス対策は全員に同じ方法を勧めるのではなく、個人の特徴に合わせて内容を工夫することが大切であると示唆されました。



【短報】在宅でのがん患者とその家族への生前と死別後のケアが有用であった一事例

ー統合医療の医療モデルと社会モデルの連携を通してー

眞弓俊也ほか

この報告は、末期がんの男性とその家族が、自宅で最期まで自分たちらしく過ごせるよう支援した事例をまとめたものです。多くの人が「自宅で最期を迎えたい」と望む一方で、家族の負担や急変への不安から断念するケースが少なくありません。本事例では、医師や看護師による医療的な支援に加え、ボランティアによる寄り添いや「岡田式健康法（浄化療法や生け花）」などのケアを組み合わせました。その結果、患者は苦痛が和らぎ、家族と穏やかな時間を過ごして旅立つことができました。また、遺された家族も、生前の手厚いケアによって死別後の悲しみを乗り越え、前向きに歩み出せたことが示されており、地域での多角的な支え合いの重要性を伝えています。



【レター】公正な医療サービスをめぐる世界の潮流 ー国際 HPH カンファレンスに参加してー

木村友昭

本報告は、2024 年に広島で開催された「第 30 回国際 HPH カンファレンス」の概要をまとめたものです。大会では「健康の公正性 (Equity)」をテーマに、弱者や障害者に配慮した医療の重要性が議論されました。日本からは、農村医学の礎を築いた佐久総合病院や、乳児死亡ゼロを達成した岩手県沢内村の事例が紹介されました。また、シンガポールの社会的処方取り組みや、気候変動が健康に与える影響についても触れ、医療従事者が地球規模の環境配慮 (プラネタリー・ヘルス) を持つ必要性が示唆されています。

【レター】バイオフィールド・セラピーのスコーピングレビューについて ーエビデンスマップの紹介ー

田中英明

本報告は、バイオフィールド・セラピー（生体場療法）に関する最新のスコーピングレビューと、それに基づく「エビデンスマップ」を紹介しています。米国では退役軍人向け医療などで本療法の導入が進む一方、研究報告の記述に一貫性が欠けるなどの課題があります。これに対し、研究者グループは 2024 年 1 月までの論文 352 件を分析し、22 種類の療法を網羅したオンラインマップを構築しました。研究対象はレイキ (88 件) やセラピューティック・タッチ (71 件) が多く、岡田式浄化療法や浄霊も各 6 件登録されています。本レビューは、エビデンス構築と医療制度への統合を目指す重要な取り組みとして位置づけられています。

付録③ 学会発表一覧

No.	学会名	形式	発表者	共同発表者（当財 団関係者のみ）	タイトル
国内学会発表					
1	第43回日本生理心理学会	ポスター	内田主任研究員		心身のストレスとライフスタイルの関連と個体差について
2	日本応用心理学会 第90回大会	ポスター	内田主任研究員	田中研究員	花を用いた心理療法で撮影された生け花画像に関する距離分析 と印象評価分析の検討
3	第26回日本有機農業学会大会	セッション	加藤研究員		有機農業を通じた「農医連携」の意義
4	第29回日本統合医療学術大会	パネルディス カッション	片村常務理事	鈴木理事長 中島理事	療院と地域コミュニティの連携によるライフスタイルケアの 意義
5	第29回日本統合医療学術大会	シンポジウム	内田主任研究員		花はこころと体を癒す
6	第29回日本統合医療学術大会	ポスター	内田主任研究員	田中研究員 片村常務理事 富嶋客員研究員	2か月間の社会モデル的サポートによる心身のストレス改善につ いて
国内学会発表（サポート）					
7	第29回日本統合医療学術大会	ポスター	津村慶子	有馬理事 田中研究員	統合医療施設（関西療院）における看護師の役割～医療と岡田 式健康法をつなぐ架け橋として～
8	第29回日本統合医療学術大会	ポスター	池田淳史	木村友昭	岡田式浄化療法によってナルコレプシーが改善に向かい、全人 的ケアに役立った一例

付録④ 「これからの医療とまちづくりシンポジウム」 地方開催の詳細

①	タイトル	「ケアとしての医療」を考えるシンポジウム ～すべての人々を包み・支え合い、排除や孤立などをなくす社会へ～
	開催日時	令和7年4月12日（日）15:00～17:30
	会場	広島市文化交流会館 銀河
	主催	「ケアとしての医療」を考えるシンポジウム実行委員会
	後援	広島県、広島市、（一社）MOAインターナショナル、（医財）愛和会、（一財）MOA健康科学センター、（一社）MOA自然農法文化事業団
	内容	講演1：『医療モデルと社会モデルの一体化による「共助モデル」について』 講演者：片村宏 エムオーエー新高輪クリニック 院長 講演2：『地方創生、地域共生社会実現に向けた「いくらの郷」の報告』 講演者：坂本昭文 いくらの郷 所長 【報告】 ケアとしての介護・福祉を目指して 講演者：堀島由利 （コスモケアエナジー 社長） 松井光子 （コスモケアエナジー デイサービス管理者） 【パネルディスカッション】 ケアとは何か、ケアの必要性 どのようなケアによって、人は立ち上がっていくのか ケアと医療について 【座長】津谷隆史（医財）愛和会 広島クリニック院長 【パネラー】 片村宏（東京療院療院長） 坂本昭文（いくらの郷 所長） 堀島由利（コスモケアエナジー社長）
②	タイトル	第5回 「美味しいまちづくり」シンポジウムinちば
	開催日時	令和7年8月31日（日）13:00～15:30
	会場	市川市全日警ホール
	共催	美味しいまちづくりシンポジウムinちば実行委員会、MOA食育ネットワーク千葉、一般社団法人MOA自然農法文化事業団千葉連合会
	協力	明るい社会をつくる会千葉県支部
	後援	農林水産省、千葉県、市川市、千葉市、習志野市、市川市、船橋市、佐倉市、四街道市、成田市、八街市、大網白里市、いすみ市、市原市、木更津市、君津市、白井市、鎌ヶ谷市、柏市、富津市、茂原市、袖ヶ浦市、富里市、神埼町、東庄町、多古町、市川市教育委員会、野田市教育委員会、千葉日報社、一般財団法人MOA健康科学センター
	内容	講演：「食べ物でからだをつくり、食べ方で心をつくる」 講演者：渡辺好明（新潟食料農業大学名誉学長） 【パネルディスカッション】 「美味しいを拡大する営みについて」 【パネラー】生産者代表 成瀬久美 （千葉中央普及会・蓮葉果紅代表） 消費者代表 境たか子 （MOA食育アドバイザー） 各種団体 千葉光行（元市川市長 歯科医師） 豊田益代（（一財）MOA健康科学センター理事・東京療院管理栄養士）

付録⑤ セミナー一覧

No.	日付	場所	名称	講演者	人数
1) 各地域での実施					
1	8/10	南東京オフィス	健康セミナー	内田主任研究員	100
2	11/16	全日警ホール	健康セミナー	内田主任研究員	25
3	11/20	オンライン	MOA四国・食育資格者の集い	加藤研究員	
4	12/18	オンライン	神奈川歯科大学大学院・統合医療講座	加藤研究員	20
2) 箱根町・瑞泉郷などでの実施					
1	8/1	ビデオ	箱根光輪祭	内田主任研究員	2000
2	9/13	大仁瑞泉郷	食育デー	加藤研究員	4
				合計	2149

付録⑥ 健康チェック一覧

No	日付	場所	名称	回数	人数	一般人数	寄付金
1) 東京療院における受入							
1	2025/4～2026/3	東京療院	健康チェック	91	827	143(17.3%)	¥344,900
	2025年度	東京療院	健康チェック	97	947	166(17.5%)	¥373,350
	増減率（％）			-6.2	-12.7	-13.9	-7.6
	研修の受入	東京療院	地域ネットワーク	3	32	市川市NW、取手NW、茨城県NW	
			海外一行	4	33	アメリカ一行、アルゼンチン一行、チェン博士一行、タイ国シータンヤ病院一行	
2) 各地域での実施							
1	4/24	函南町役場	函南ウェルネスフェア	1	123	ほぼ一般	¥15,000
2	5/3	柏市あけぼの山農業農業公園	フリーマーケット	1	18	全て一般	¥5,100
3	6/22	柏市あけぼの山農業農業公園	フリーマーケット	1	6	全て一般	¥2,000
4	11/3	市川市大洲防災公園	市川市市民祭り	1	110	全て一般	¥7,000
5	11/16	市川市全日警ホール	健康増進セミナー	1	11	全て一般	¥20,000
6	11/30	函南町役場	函南みのりまつり	1	36	ほぼ一般	¥7,300
7	3/21	小田原会館	健康フェア	1	27	メンバー	¥0
3) 箱根町・瑞泉郷などでの実施							
1	2024/4～2024/12	箱根神仙郷	健康チェック	7	延598	メンバー	¥91,250
2	11/15	大仁瑞泉郷	大仁瑞泉郷フェス	1	36	一部一般	¥6,600
2025年度合計				106	1792		¥499,150
2024年度合計				114	1722		¥527,250
増減率（％）				-7.0	4.1		-5.3